

旬の本棚 平成30年3月号

受賞作品

第20回大藪春彦賞

『白い衝動』 呉勝浩 // 著 (F ゴ)

スクールカウンセラーとして働く奥貫千早のもとに現れた高校1年の生徒・野津秋成は、「人を殺してみたい。できるなら、殺すべき人間を殺したい」と語りだした…。社会が抱える悪を問う、祈りに溢れた長編小説。

第20回大藪春彦賞

『Ank:a mirroring ape』 佐藤究 // 著 (F サト)

2026年、多数の死者を出した京都暴動。感染症でもテロでもない。発端となったのは一頭の類人猿。東アフリカからきた「アंक(鏡)」という名のチンパンジーだった…。人類初の災厄に、霊長類研究者が立ち向かう!

第69回読売文学賞

『僕が殺した人と僕を殺した人』 東山彰良 // 著 (F ヒガ)

2015年冬、アメリカで連続殺人鬼「サックマン」が逮捕された。「わたし」は台湾で過ごした少年時代を思い出していく。1984年。13歳だった。わたしはサックマンを知っていた…。

新書大賞2018

『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎 // 著 (486 マ)

人類を救うため、そして「バッタに食べられたい」という自身の夢を叶えるために。昆虫学者である著者が、バッタ被害を食い止めるため単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴る。

第24回島清恋愛文学賞

『風が吹いたり、花が散ったり』 朝倉宏景 // 著 (F アサ)

彼女は俺を信じている。俺は彼女に嘘をついている…。視覚障害のある女性ランナー・さちの伴走者として未体験のマラソン距離に挑む19歳のフリーター・亮磨。不器用な若者たちを描く青春小説。

ドラマ化作品

イノセント・デイズ 出演:妻夫木聡、竹内結子

『イノセント・デイズ』 早見和真 // 著 (F ハヤ)

放火によって奪われたのは、元恋人の妻とまだ1歳の双子の命。確定死刑囚・田中幸乃の人生は「不運」と「悪意」が支配していた。なぜそんなことをしたのか? 彼女が犯した最大の罪とは?

映画化作品

去年の冬、きみと別れ 出演:岩田剛典、山本美月

『去年の冬、きみと別れ』 中村文則 // 作 (F ナカ)

ライター「僕」は、2人の女性を殺した容疑で逮捕され、死刑判決を受けた被告の面会に行く。調べを進めるほど、事件の異様さに飲み込まれていく「僕」。被告や周囲の狂気が暴走し、真相は迷宮入りするかに思われたが…。